

# 経済同友会 提言「21世紀中小企業ニューディール政策－幸せで豊かで活力ある『中小輝業』へのフロンティア」概要

## I 基本認識

1. 「戦後60年(1、2代目)モデル」の限界: 戦後60年を経過して「3代目時代」に入った日本経済・中小企業は、大きな転換点に直面している。
2. 「経済生態系」崩壊危機と中小企業: 活力ある「経済生態系」の基層を形成する中小企業を「次の30年」存続させ得る「フロンティア」を明示すべき時。

## II 中小企業の新たなフロンティアを求めて

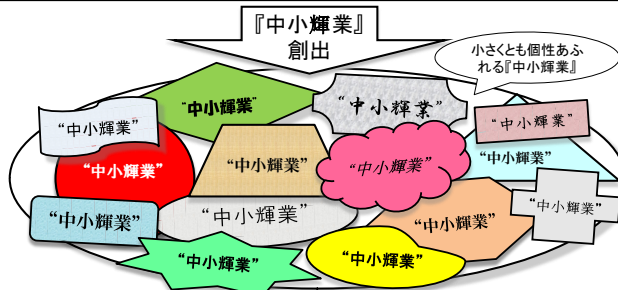
1. 新フロンティア移行を後押しする流れ:  
(1)「バランスのとれた多様性ある産業構造」への転換の必要性、(2)国民の価値観の変化、(3)ITとインターネットによる情報・流通革命
2. 中小企業観の転換: 経営者の理念・志が組織に行き渡り、「小さくとも、強く、楽しい、自分の顔を持った中小企業」  
＝『中小輝業』(Small but Excellent & Interesting Enterprises (SExIE: セクシー))を多数創出すべき。

## III 提言:「21世紀 中小企業ニューディール」で新たな日本を創る

1. 新たな中小企業政策の座標軸:  
(1)「文明型(純グローバル型)」の財・サービス: 自動車・家電など、主に先端的科学技術に基づき、生活の利便性・効率性を高めてくれる財・サービス。当初からグローバル展開を展望し、「マーケット・イン」「マーケット・アウト」など「絶えざる自己否定」が求められる。  
(2)「文化(グローカリズム型)」の財・サービス: 衣食住などの生活必需品、趣味など、多様な生活・心の豊かさをもたらしてくれる財・サービス。歴史と伝統に育まれた価値を再発見し、自信を持って「和の哲学・ライフスタイル」を世界へ発信してゆく。

### 2. 具体的提言:

### 「21世紀 中小企業ニューディール政策」



### (1) New Deal 1: 「文明型」戦略

- ①「文明型大企業」の活性化(成長分野支援、法人税引下げ、EPA/FTA推進等)
- ②移行期の中小企業の戦略  
(A)国際化・海外展開:『“臥龍⇒昇龍”プログラム』を集中的に展開  
(B)大企業の「技術パートナー化」: 非工学部連携のシステム化、中核企業への「漁礁」計画  
(C)「文化型中小企業」への飛躍(文明型ではなく、文化型の土俵で飛躍を目指す)
- ③「名誉と余力ある撤退」の支援(ある程度余力のあるうちに撤退することも視野に)

### (2) New Deal 2: 「文化型」戦略

- ①「ホンモノづくり」: 外部目利き導入、「農商工文」連携、流通改革と海外への「カエル跳び計画」、地域の価値を守る「地域版コルベール委員会」設置等
- ②「街づくり・地域づくり」: 「面」の街づくり政策、一部私権制限、日本版BIDの本格導入等
- ③地域産業の「人づくり」: 教育機関(義務教育・大学)との連携、中小企業経営者が学校に出向く「逆デュアルシステム」等

＜「文明型」と「文化型」の相互作用＞  
■モデルプラン「レインボー・ニューディール」

### (3) New Deal 3: 共通基盤の整備

- ①中小企業政策の整理・再編と地方分権: 中小企業向け施策を「文明型」「文化型」の軸で整理・統合、その上で「文化型」関連から委譲を
- ②国際標準作りの主導: EV(電気自動車)、スマートグリッドなど国際標準作りを主導する
- ③税 制: 内部留保金課税・配当課税の見直し等
- ④金 融: 中小企業向け金融の「プレイヤー」を増やす、貸金業法施行後のフォローを